

くにしていしせき たけだしやかたあと 発表遺跡4 国指定史跡 武田氏館跡(味噌曲輪地点)

甲府市教育委員会 鷹野義朗

- 1 所在地 甲府市古府中町地内
- 2 調査主体 甲府市教育委員会
- 3 調査期間 平成30年2月から断続的調査
- 4 調査面積 約200㎡
- 5 調査原因 史跡の内容確認
- 6 調査担当者 鷹野義朗・山下孝司
- 7 調査の概要

(1) 武田氏館跡と曲輪配置

国史跡武田氏館跡は、永正16(1519)年に武田信虎が躑躅が崎の地に造営した館跡です。武田氏館(躑躅が崎館)を中心に新たな甲斐府中(甲府)が始まります。以降、晴信(信玄)・勝頼にわたって政治が行われ、名実とともに戦国大名武田氏の本拠となりました。

天正9(1581)年に、勝頼が新府城(韮崎市)を築き、一時廃墟となります。しかし、武田氏滅亡後から甲府城が築城されるまでの間、甲斐国統治の中心として再利用されました。

武田氏館の構造は、築造当初は主郭のみで、守護館の伝統を踏まえた方形単郭でした。天文年間二度の火災を経て主郭は改修されました。天文20年(1551)には、晴信の嫡男義信の婚姻に際し西曲輪が増設されます。北側一帯には、味噌曲輪・稲荷曲輪などが増設されました。館は、新府城移転までに付属郭群も含めた館機能が拡充されました。

武田氏滅亡後(織豊期)は、大規模な改修が実施され、主郭北西隅に天守台、南西に梅翁曲輪が築かれました。

曲輪の随所に、土塁や堀・枡形虎口・馬出・石積みなど特徴的な遺構が当時のまま残っています。

(2) 味噌曲輪の概要

調査している味噌曲輪は、絵図に味噌郭(曲輪)以外に「蔵屋敷(敷)」「(甲州古城勝頼以前図)」「味噌蔵・小山城」(古府中城下絵図)との注記があり、貯蔵施設があった曲輪と推定されています。場所は、西曲輪の北側に位置します。東・北・西の三方を堀・土塁が囲む東西70m、南北60mの台形状を呈す曲輪です。南には、西曲輪の北枡形虎口に対応する馬出土塁があります。

味噌曲輪の築造時期は不明ですが、馬出土塁の兼

ね合いから西曲輪増設以降であることは確実です。

過去の調査(平成7・8年度)では、土塁が3時期の変遷があったことが判明し、柱穴列・建物縁石・石組水路・井戸・溝など多数の遺構が見つかります。しかし、味噌曲輪の増設前は家臣屋敷が拡がっていた可能性もあり、更なる検討が必要です。

(3) 発掘調査成果

今回の調査は、史跡整備の計画に伴い①馬出土塁の範囲・規模・構造確認②味噌曲輪東虎口の有無確認を目的に実施し、以下の成果がありました。

①角馬出石塁を確認

- ・東の東面は約10m(※大手石塁は11m)。
- ・東の南面は約4.5m(※大手石塁は3.5m)。門の礎石を1基検出しました。
- ・東の西面は約4.5m。大手石塁で確認している「階段」は未検出です。
- ・東西の長さは、約33m(大手石塁は25.7m)。
- ・一部、南北の石積みが確認でき、大手石塁(コの字形)とは違う角馬出の可能性ががあります。
- ・複数時期の変遷
現状の石積み、近代の石列、角馬出石塁の石積み(織豊期の2時期か)、武田氏時代の石積み(2時期以上)を確認しています。

②丸馬出の確認

- ・角馬出の下層から円弧を描く堀跡を確認。規模は今後の調査で確認しますが、三日月堀と考えられます。
- ・土塁の版築も一部確認。

③絵図で表記される東側虎口の未検出。

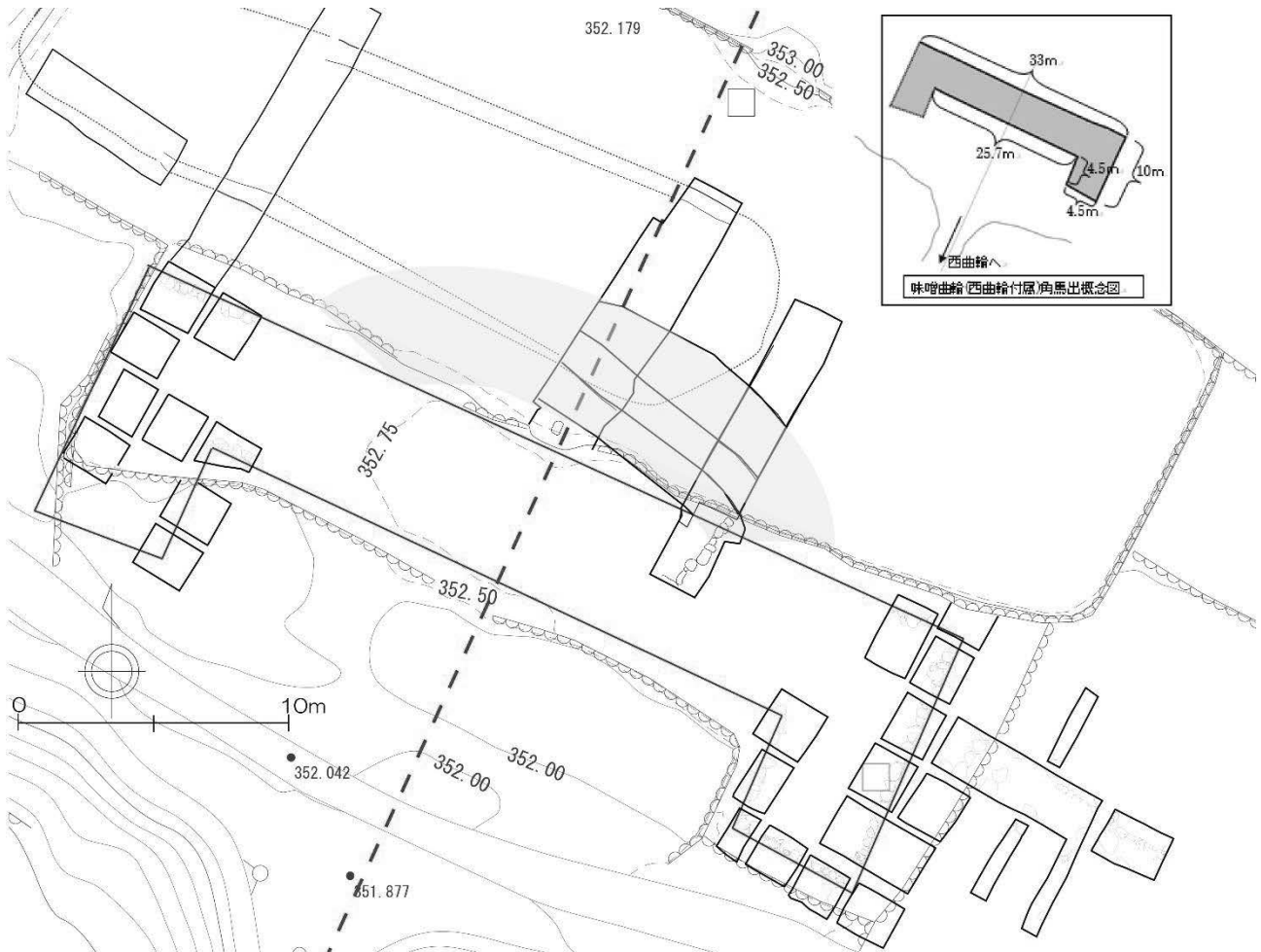
まとめ

今回の調査では、味噌曲輪築造以前から武田氏滅亡後(甲府城築城まで)の複数時期にわたる遺構が良好に検出されました。整備工事に活かすため、各遺構の性格と時期を判断するためにも、今年度以降も調査を実施し、検討を行います。

今後も、国史跡武田氏館跡が辿ってきた歴史を整備工事に活かし、甲府市武田氏館跡歴史館で活用していきます。



味噌曲輪調査地点の俯瞰写真（北西から撮影）



味噌曲輪調査地点の角馬出と三日月堀調査状況